

事業所における児童発達支援自己評価表(公表)

2020年度期

事業所名：TAKUMI川崎戸手（児童発達支援）

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	児童間の距離を適切に保ち、安全面に配慮している。
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、常時指導員は常に3名体制となっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	空間の理解を行いやすいように、配置するものの量や掲示物等を調整している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	清掃を毎日行い、清潔を保っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	活動を行う際、目標を意識したうえで、具体的なプログラムに落とし込んでいる。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	毎回フィードバックを行い、児童の様子を伝えるとともに、ご利用者の様子や要望を伺うように心がけている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	今回が初実施になるので、これから公開を行う予定である。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	現在、実施の予定はないが、必要に応じて検討する。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	コロナ禍ということもあり、外部研修の機会が減っているが、2カ月に1回、内部研修を行っている。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	ご利用者の隠されたニーズにまで目を向けた支援計画になるようにしている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	体験利用時に簡易なアセスメントを行い支援計画を立てている。利用後半年以内に共通のアセスメントツールを使い、詳細なアセスメントを行う予定である。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	そのように実施している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	支援員全員が支援計画を把握し、支援を行うよう心がけている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	毎回、振り返りを行い、次回以降の支援に役立てている。必要な際は、別途に時間を取り、話し合いを行っている。

提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	様々な運動や創作のプログラムを用意し、児童の状況を見て行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成している	集団での療育を前提としているが、成長段階に応じて、個別での対応をとっている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	毎回必ず行い、情報の共有と意見の交換を行い、役割分担の確認をしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	毎回必ず行い、情報の共有と改善点について討議している
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	個別の記録は及び、クラス全体についての記録も残している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	目標が達成できているかの確認は細やかにを行い、達成度に応じて、支援計画を見直すようにしている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	現状、担当者会議への出席はないが、開催の際には参加する予定である。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	一部地域の療育センターの担当者とは情報の共有を行っている。今後はほかの地域とも連携していきたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	一部ではあるが、保護者様からの要望で情報共有と、支援の統一を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	現在、まだ対象者がいないため行えていないが、保護者様からの要望に応じて、資料等の提供は行えるよう準備している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	まだ、行えていない。 外部研修などを通じて、その機会としたいと考えている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	まだ、行えていない。 コロナ禍ということもあり、慎重に検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	参加できていない。 参加の機会があれば、参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	フィードバックや個別面談で共通理解を持てるよう心掛けている。

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	ペアレントトレーニングの実施の予定はないが、要望があれば検討する。保護者向けの研修や情報交換会を検討している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	契約の際に丁寧に説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	実施している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	毎回のフィードバックから、悩みや問題点を吸い上げ、問題解決が図れるようにしている。 また、定期の面談を予定している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	個人情報の問題やコロナ禍も含めて慎重に検討したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	適切に対応できていると思うが、相談の申し入れ方法を明確化できていないため、申し入れがしにくい方もいるように思う。わかりやすい相談方法を提示していきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	今後、検討いたします。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	鍵付きの書庫での書類の保存や書類の破棄方法など管理している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	子どもに対しては、視覚支援や情報量など個人に合わせた伝え方をするようにしている。 現在、保護者には特別な配慮が必要な方はいないが、重要な情報に関しては、口頭と文章両方でお伝えするようにしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在のところは行っておらず、今後必要に応じ検討していく予定。
非常	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアル類は用意があり、保護者への周知を行っている。保護者用に簡便なマニュアルを作成し、配布する予定である。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	半年に1度の訓練を5月と11月に実施する予定である。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	受け入れ時に入念に聞き取りを行い、各職員で共有して対応している。

時 等 の 対 応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	食物アレルギーについては把握しているが、飲食を提供しないため特別な対応は取っていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	その都度記録し、毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。また、月に1度検討する時間を設けている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	昨年12月に虐待防止研修を行った。今後も年に1度以上研修を行う予定である。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	支援としての身体拘束は行わない方針ではあるが、危険な場合の介入については、保護者に説明し、理解をいただいている。

保護者等からの児童発達支援評価の集計結果(公表)

2020年度期

事業所名：TAKUMI川崎戸手（児童発達支援）

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	25	0	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	21	2	0	2	曜日によって人数は異なりますが、先生が足りないと思う日があります。	常時3名体制でしたが、職員の増員をしたため、必要に応じて4名の体制が取れるようになっております。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	23	2	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	25	0	0	0	とてもきれいで大満足です。	今後も継続してまいります。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	22	0	0	3		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	21	1	0	3		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	24	0	0	1		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	25	0	0	0		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	5	5	2	13	コロナ禍で機会が少ないのかな、と思います。	コロナ禍や支援の時間の都合上難しいと考えていますが、直接ではなくとも、かわりをもつ方法はあると思いますので、慎重に検討していきたいと思っています。
保護者 へ	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	25	0	0	0		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	24	0	0	1		
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	9	4	2	10		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	21	3	0	1	毎回フィードバックがきちんとあり、ありがたいです。 職員の方との会話の時間が短く、もう少し話ができる時間が欲しい。	可能な限りフィードバックの時間を増やしていきたいよう努めてまいります。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	4	1	6		

の 説 明 等	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	4	5	5	10		
	16	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	15	1	0	8	相談や申し入れをする時間がない。	ご相談は随時受けておりますが、申し入れの仕方など不明瞭な点があったと思います。定期的な面談以外のご相談について気軽に行えるような環境、雰囲気を作っていきます。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	22	1	0	2		
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9	1	2	12		
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	22	0	0	3		
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	5	5	1	13		
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5	5	1	13	1度は避難訓練を実施して欲しい。	5月と11月に実施予定です。文書でお知らせさせて頂きたいと思います。
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	24	1	0	0	通所を渋ることもありますが、来ると内容が楽しく、充実した時間を過ごせて満足していると思います。	・ありがとうございます。今後も楽しく通えるTAKUMIを目指して、職員一同がんばってまいります所存です。
	23	事業所の支援に満足しているか	24	0	0	0	スモールステップでできたことをその場で褒めていただけているので、引き続き、否定せず褒めて支援して欲しいです。 とても丁寧かつ、楽しい内容で母子ともに毎回楽しみにしています。いつもありがとうございます。	・ありがとうございます。今後も楽しく通えるTAKUMIを目指して、職員一同がんばってまいります所存です。

事業所における放課後等デイサービス自己評価表(公表)

2020年度期

事業所名：TAKUMI川崎戸手（放課後等デイサービス）

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	法令順守を行い、十分なスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切であるか	配置加算を採用しているので、常時指導員は常に3名体制となっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	建築基準法に基づき、入口にはスロープ、トイレには車いす対応の手摺等を取り付け、バリアフリー化の配慮を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	個別支援計画に基づき、日々の療育の前に指導員全員でミーティングを行い、終了後にも振り返りを行い、次回の療育に繋げる対策を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	保護者向けアンケートを実施し、評価の悪い項目については、今後計画的に改善を行っていく。また、顧客満足度調査を今年度には実施し、業務改善に繋げていく予定。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	現在行っていないため、今後HPで公開していく予定
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	現在第三者による外部評価は行っていないが、今後も今のところ予定はなく、必要に応じ検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	コロナ禍によって、外部研修の機会が減っているが、2カ月に1度、内部研修を行っている。
適切な支援の	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。成長に合わせて修正も行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	契約時に簡易なアセスメントを行っており、通所後半年以内に共通のアセスメントツールを使い評価を実施していく予定である。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	児発管と指導員が話し合い、プログラムの立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	運動はクラスごとにプログラムを変えている。 創作は前月に立案し、クラスごとの課題をに沿って計画をしている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	長期休暇時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容で実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	こどもの課題や適性に応じたクラス編成を行い、課題に沿ったプログラムを提供している。

サービス提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点洗い出している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙（子どもの一言情報）にも記入し、検証している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	現在、開所2カ月であり、モニタリングは未実施であるが、定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断していく予定である。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	季節を感じるイベントなども行い、ガイドラインに沿った活動を行うよう考えている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	サービス担当者会議の参加はまだないが、開催の場合は、参加する予定である。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	送迎を行っていないため、定期的な情報共有はないが、保護者の申し出で情報の共有を行っている児童もいる。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	現在は就学前の各園との情報共有等は行っていないが、放課後等デイサービスや保険対象外の療育施設との情報共有や相互理解は要望があれば対応している。今後、必要に応じ検討していきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	過去に放課後等デイサービスを卒業した児童はいないが、保護者からの要望に沿って、資料の提供を行う予定である。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	川崎市南部地域療育センターの担当者とは情報のやりとりを行っている。ほかの地域の療育センターとのやりとりはまだないが、今後行っていく予定である。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	現在は限られた営業時間の中で実施するのは難しく実施していない。また保護者からも必要との声が聞こえてこないため、今後必要性を検討していく。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	自立支援協議会への参加はまだできておらず、今後検討していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	現在、実施の予定はないが、要望があれば今後検討していく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約時に運営規定、利用者負担について説明を行っている。複数児童の場合や川崎の独自上限など複雑な場合があるので、利用者ごとに必要な情報に違いがあることに留意して伝えていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	適宜行っているが、さらに相談が気軽にできる枠組みを考えていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	参加を希望される方が参加できる保護者会のようなものを行うか検討しております。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	現在は契約時等に苦情の連絡方法を伝えたり、苦情になる前に保護者の様子を察知し事前対応しているが、もっと気軽に相談できる環境を整備する必要があると感じている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	スケジュール等についてはお知らせしているが、活動報告については行えていない。会報なども考えているが、個人情報の問題もあり、慎重に検討していく。
	35	個人情報に十分注意しているか	個人情報と思われる資料は、シュレッダーを掛けたり、カギ付き書庫の中に保管したりしている。また、保護者との会話の中で個人情報を漏らさないよう配慮している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	子どもに対しては、視覚支援や情報量など個人に合わせた伝え方をするようにしている。現在、保護者には特別な配慮が必要な方はいないが、重要な情報に関しては、口頭と文章両方でお伝えするようにしている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	現在のところは行っておらず、今後必要に応じ検討していく予定。
非	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	左記マニュアル類はできており、保護者への周知を行っている。保護者用に簡便なマニュアルを作成し、配布する予定である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	半年に1度の避難訓練を実施する予定である。

常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	昨年12月に虐待防止研修を行った。今後も年に1度以上研修を行う予定である。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	支援としての身体拘束は行わない方針ではあるが、危険な場合の介入については、保護者に説明し、理解をいただいている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	食物アレルギーについては把握しているが、飲食を提供しないため特別な対応は取っていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	その都度記録し、毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。また、月に1度検討する時間を設けている。

保護者等からの放課後等デイサービス評価の集計結果(公表)

2020年度期

事業所名：TAKUMI川崎戸手（放課後等デイサービス）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10	1	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	11	0	0		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	5	0		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	10	1	0		
	5	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	11	0	0		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	0	6	4		
保護者 への 説明 等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10	1	0		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	11	0	0		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7	3	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	7	3		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	3	0		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9	2	0		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	3	6	1		
	14	個人情報に十分注意しているか	9	1	0		
非常 時 等 の 対 応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	10	0	0		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3	6	1		
満 足 度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	10	1	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	11	0	0		